

|        |   |
|--------|---|
| 目指す学校像 | みんなでつくる みんなの学校 ～児童・教職員・保護者・地域のすべての人の笑顔のために～ |
|--------|---|

|      |  |
|------|--|
| 重点目標 | 1 英語教育を中心とした小・中一貫教育「花笑み教育」の実現<br>2 安心・安全な学習環境の礎となる人間関係の構築と施設設備・予算の適切な管理<br>3 学校・家庭・地域が連携して進める魅力ある新和地区の創造<br>4 「学びのポイント」を意識した授業展開による学びの自律化の促進 |
|------|--|

※重点目標は4つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目は複数設定可。  
 ※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

|     |   |              |
|-----|---|--------------|
| 達成度 | A | ほぼ達成 (8割以上)  |
|     | B | 概ね達成 (6割以上)  |
|     | C | 変化の兆し (4割以上) |
|     | D | 不十分 (4割未満)   |

| 学 校 自 己 評 価 |  |   |  |   |           |     | 学校運営協議会による評価 |                     |
|-------------|--|---|--|---|-----------|-----|--------------|---------------------|
| 年 度 目 標     |  |   | 年 度 評 価  |   |           |     | 実施日令和 年 月 日  |                     |
| 番号          | 現状と課題  | 評価項目  | 具体的方策  | 方策の評価指標   | 評価項目の達成状況 | 達成度 | 次年度への課題と改善策  | 学校運営協議会からの意見・要望・評価等 |
| 1           | <現状><br>○城南中学校・和土小学校との英語を中心とした小・中一貫教育「花笑み教育」推進の初年度となる。<br>○令和5年度さいたま市学習状況調査によると、どの学年も。各教科において、市平均値よりもやや下回っている。<br>○生活習慣調査では、「自分にはよいところがあると思いますか」等の質問で、市平均値よりも肯定的な回答を示す割合が高い。<br><課題><br>○各教科において基礎的、基本的な知識は個人差が大きい。<br>○算数では、データを活用する力に課題がある。                          | ・児童が英語に親しみ、意欲的に取り組んでいる状況                    | ①ネイティブ教員、G・S 非常勤講師、ALT 等と連携しながら、各学年 G・S の授業を工夫する。<br>②児童が日常的に英語に親しめるよう掲示物等、環境を整える。   | ①保護者学校評価項目 4「地域のよさを生かした学習活動」の A 評価回答 (R5 ; 71%→R6:75%以上)<br>②児童アンケートで英語を肯定的にとらえている回答 80%以上 (新規調査)   |           |     |              |                     |
|             |  | ・タブレット端末や ICT を活用して、個別最適な学び、協働的な学びを実施している状況 | ①タブレット端末を活用した授業実践を推進する。<br>②スタディサプリ・ドリルパーク等を活用して個に応じた学習を行う。<br>③オクリンク等、共同編集アプリを活用して協働的な学習を行う。  | ①教職員学校評価項目 12「ICT を活用した授業実践」の肯定的な回答 (R5 ; 3.5P/4P→R6; 3.6P/4P 以上)<br>②児童がタブレットをほぼ毎日活用している状況 (R5 ; 32%→R6:40%以上)                           |           |     |              |                     |
| 2           | <現状><br>○令和5年度の児童アンケート「クラスや学校での生活を楽しく過ごしています。」では、95%の児童が肯定的に回答している。<br>○今年度より、プールの解体工事が始まり、仮設校舎が建築される予定であり、校庭の使用が制限される。<br><課題><br>○心と生活のアンケートより、自己信頼や他者信頼が低い児童が一定数いるので、さらによりよい人間関係を構築する必要がある。<br>○仮設校舎建設に伴い、騒音の問題や校庭等の施設利用について制限がかかるので、教育活動に影響が出ないように単元の入替えや工夫が必要である。 | ・児童が安心して学べる学習環境や人間関係の構築                     | ①「いのちの支え合い」を学ぶ授業や道徳教育を中心に生命の尊さ、思いやりの心、規範意識等をはぐくむ。<br>②「心を潤す4つの言葉」「心を元気にする4つの言葉」の推進、人間関係プログラムを実施により、コミュニケーションスキルを向上させる。                         | ①児童アンケート評価項目 2「クラスや学校での生活を楽しく過ごしています」の A 評価回答 (R5 ; 76%→R6:80%以上)<br>②児童アンケート評価項目 3「いじめがなく、友達と仲良く生活しています」の A 評価回答 (R5 ; 75%→R6:80%以上)     |           |     |              |                     |
|             |  | ・施設設備・予算の適切な管理                              | ①安全点検の確実な実施と即時対応を行う。<br>②教育委員会等と連携して、工事を円滑に進める。<br>③清掃の仕方を学校で統一し、効率的で効果的な活動にする。<br>④チェックリストをもとに適切な会計報告がなされているか確認する。                            | ①教職員学校評価項目 39「安全管理は適切である」の肯定的な回答 (R5 ; 3.4P/4P→R6; 3.5P/4P 以上)<br>②各予算の適切な執行と正確な会計報告・監査   |           |     |              |                     |
| 3           | <現状><br>○令和4年度に文部科学省より「学校・家庭・地域で取り組む食育」について表彰を受けた。<br>○青少年育成会、自治会、社会福祉協議会等、本校を取り巻く地域の団体が緊密に連携し、児童を見守っている。<br><課題><br>○学校運営協議会で「安心・安全な新和地区を創るために」をテーマに3か年の活動スパンで目標を設定したが、意識・行動をどのように維持・継続させていくかが課題である。<br>○学校の教育活動をホームページや学校安心メールで紹介しているが、さらなる周知が必要である。                 | ・学校運営協議会を中心とした学校経営の計画・実施                    | ①学校運営協議会において、魅力ある学校づくりについて熟識し、学校運営に反映する。<br>②ホームページを充実させたり、各種たよりを発行したりするなど、児童の教育活動の様子を発信・周知する。<br>③学校・家庭・地域が連携して「自分の命を守る」取組を実施する。              | ①保護者学校評価項目 10「学校・保護者・地域」の A 評価回答 (R5 ; 47%→R6:50%以上)<br>②学校運営協議会、SSN、PTA と地域団体と良好な関係<br>③学校・家庭・地域が連携して「自分の命を守る」取組の実施                      |           |     |              |                     |
|             |  | ・保護者・地域との円滑な連携                              | ①保護者が相談しやすいように、専門職や外部機関と連携するなど教育相談体制を整備する。<br>②授業参観、地域学校保健委員会、図書館等の施設など、積極的に学校を開放する。   | ①専門職や外部機関と円滑な連携<br>②年に3回以上学校公開を実施(地域学校保健委員会・施設開放を含む。)<br>③教職員学校評価項目 39「学校と関係諸団体との連携」の肯定的な回答 (R5 ; 3.4P/4P→R6; 3.5P/4P 以上)                 |           |     |              |                     |
| 4           | <現状><br>○研修主任やエバンジェリストを中心に、教育活動における効果的な ICT の活用方法について研修を重ねてきた。<br>○日課を工夫したり、会議や研修の持ち方を精選したりしながら教員が教材研究に充てる時間を確保してきた。<br><課題><br>○授業における ICT の活用方法について、さらに改善の余地がある。<br>○「学びのポイント」を意識した授業の研究について取り組み始めたばかりなので、さらなる実践経験が必要である。(児童が主体的に学ぶようにするためにはどうしたらよいか等)               | ・「学びのポイント」を意識した授業展開の実施                      | ①「教える」から「学ぶ」授業に転換できるように、学びのポイントを意識した学習過程を展開する。<br>②市教委による指導訪問、学力向上カウンセリング訪問等を活用したり、校内研修を充実させたりして授業力の向上を図る。<br>③高学年教科担任制を実施し、教材研究を充実させ、専門性を高める。 | ①保護者学校評価項目 3「わかりやすい授業」A 評価回答 (R5 ; 48%→R6:50%以上)<br>②児童アンケート評価項目 1「基礎的な学力を身に付けています。」の A 評価回答 (R5 ; 587%→R6:60%以上)<br>③「学びのポイント」を意識した授業の実践 |           |     |              |                     |